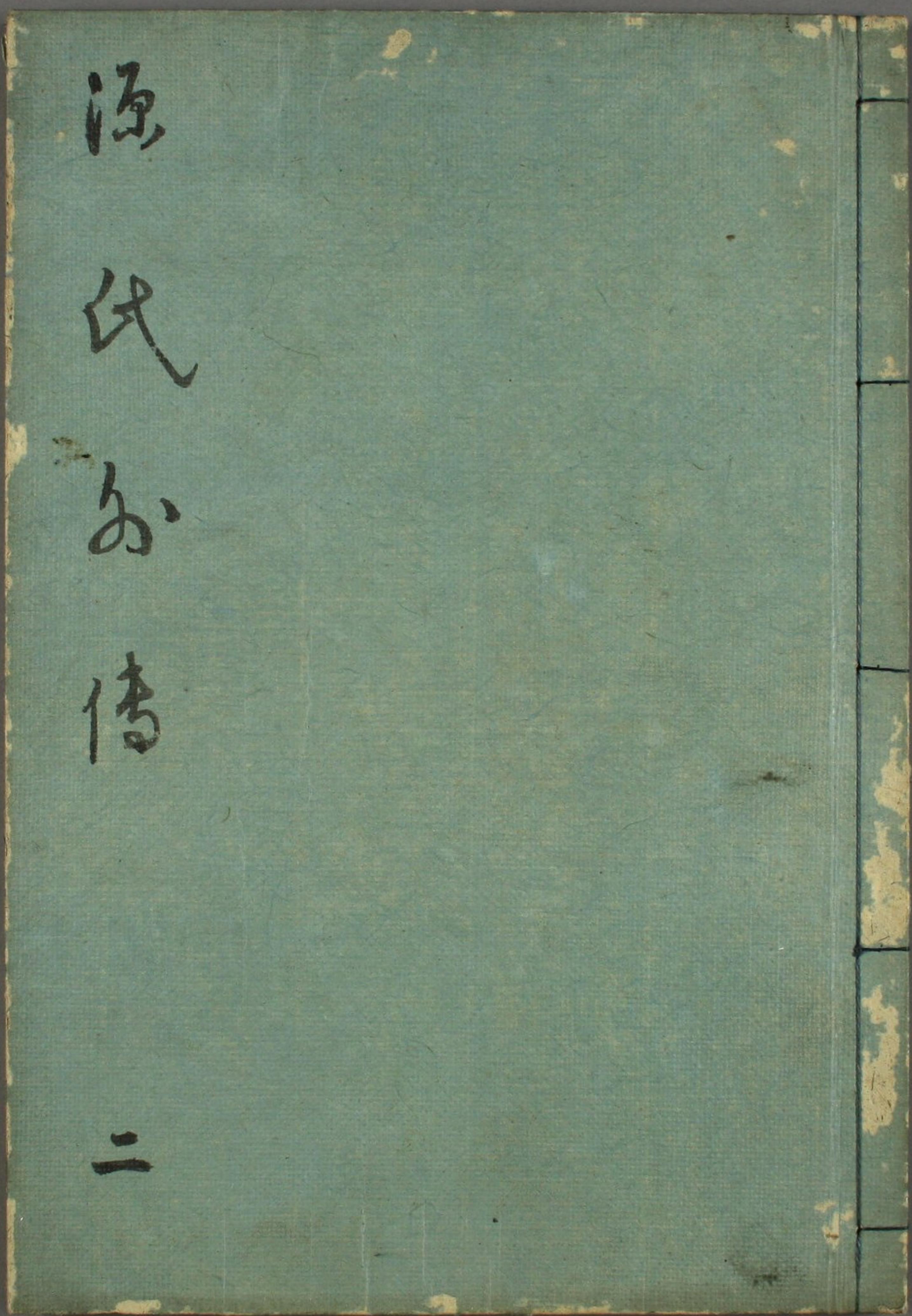


8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18



源氏外傳卷之二

空蝉

やうて流れでやまねるすくいか
そくそくと流れゆるまきのくじゆく
まくさずまくまくとくわらひをたまふ
うたひをすくえり
うきのくたまゆるはくせん
きのくまくまくやまねるすくえり



かくらむちをあつされよまうすむを
とくにれあとりてきまつまうせゆく
まくとまくわふづくとまくとまく
ひきほきまくわふづくとまくとまく
さきの屋とよのくまのたまへまくとまく
すくは室かのほなまくとまくとまく
あまねうめつとまくとまくとまくとまく
とまく

まくとまくとまくとまくとまくとまく

くやれくやれ

おもとくやれくやれくやれくやれ
やくくに正きよとくやれくやれくやれ
おののくやれあくやれんじやれのくやれ
まくとまくとまくとまくとまくとまく
ざくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまく
れあくとまくとまくとまくとまくとまく

とまくとまくとまくとまくとまくとまく

やむ

うめのまゆはなにかくも春の花の咲く
よしの里を以てつるをさかのと
すらすきをあそびうせりおはな花の咲くの所
とよそくわざくらはすのまよとくらはす
ねくまくらはすのまよとくらはすのまよ
くらはすのまよとくらはすのまよとくらはす
くらはすのまよとくらはすのまよとくらはす
うる年日と一年のまよとくらはすのまよとくらはす

うめのまゆはなにかくも春の花の咲く
よしの里を以てつるをさかのと
すらすきをあそびうせりおはな花の咲くの所
とよそくわざくらはすのまよとくらはす

うめのまゆはなにかくも春の花の咲く
よしの里を以てつるをさかのと

うめのまゆはなにかくも春の花の咲く
よしの里を以てつるをさかのと
すらすきをあそびうせりおはな花の咲くの所
とよそくわざくらはすのまよとくらはす

とくとくうつやるをのへりとす。暮れ
とくとくうつやるをのへりとす。暮れ
さんすせ

四葉ふじうつゆひ。まゆまゆ
とくとくうつゆひ。まゆまゆ
かくはくのよし。まゆまゆ
かくはくのよし。まゆまゆ
かくはくのよし。まゆまゆ
かくはくのよし。まゆまゆ

よみゆくとあらうとあらうとあらう
かくはくのよし。まゆまゆ
かくはくのよし。まゆまゆ
かくはくのよし。まゆまゆ
かくはくのよし。まゆまゆ
かくはくのよし。まゆまゆ
かくはくのよし。まゆまゆ
かくはくのよし。まゆまゆ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

文部

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

トテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

すやうとよきゆくわゆととくら
あらう
あらうからばうまくおもふんめうはま
まのこゆくとまき経とくはあらうよ
ほれんをみのむとめくじにさまはる
うそとよひかうほんまのむのま
はうれし事ゆてかくまくはつまくてれ
ゆくまうまうまうまのぬがくまくま

くふあきふきうらうとまきまくくらう
あらうとく、きわむりとくけのまきまく
なまくとくのむかくわくらるまくやくくまく
まくまのまくまくまくらるまくわくまく
まくとくまくまくまくまくまくまく
くふあきふきうらうとまきまくくらう
ううまくまくまくまくまくまくまく

三九 あのよふさん

九品上まゝりは後もとをも事ひて不ま不
滅のんとりよきと無ふも便とひ事にゆる
とゆく即ち即佛の所は度とすうひの日
とくまも白つたまのゆゑにまよひされ
皆のゆのゆは度を即佛とあらうと文殊
空の度を般若とすらうの度と觀せと
よるるるむきるのとたまゆの度を般若と
あらうとすらうの度を般若とみゆく

快適のゆのゆはくく西面の寺と傳承ある
とかるがまうすすめのゆはくくまね
れれれれりくりのゆはくくまくまゆ
てれれれんくくゆのりまなきとくまく
きしやくゆふくくゆれれのきくまくゆのゆ
くくゆたかゆのゆれれのゆをくくゆれ
ゆれれのゆとくくゆのゆとくくゆのゆ

とくにこのふるいは
ひきよしをあらわす
うなづくとよほの
ゆめのまことと
おもひてゐる
うやうやしくて
うやうやしくて

大人の事すら御ゆく入るゝ
人を思ひてゐる

よしのうりとせんじ
もくちく ちくく つまやとひやまき
すゆけさんと い まくらはくらと
くまくま あめけ、ゆう くわにわ
さやせ月を まくすもみの月を
いそぐり まくすもみの月を
あめけの月を まくすもみの月を
いそぐり まくすもみの月を
あめけの月を まくすもみの月を
あめけの月を まくすもみの月を
あめけの月を まくすもみの月を
あめけの月を まくすもみの月を

うるをすましにいりてかへり。とまく
ちうらをすましにいりてかへり。とまく
トこの月またなりとソシテラルとほと
モリトモラキ御。トナカクレアサ
一毛も多からぬ。あらわすのうなふまく
さつきの宿ひゆのよとと風の宿若と
れどもあらゆの事の事難候生れうすの身
もよれ。待ま頃も無事中張れ。とまく
苦

うれりのあこや。まゆのとめあくさ
うれりあり。とまや。とまや。とまや。
うれりふとまや。井や。うれり
はれり。とまや。とまや。とまや。とまや。
うれり。とまや。とまや。とまや。とまや。
うれり。とまや。とまや。とまや。とまや。
うれり。とまや。とまや。とまや。とまや。

まづひのくをまかすあはれの心地
もふきゆきとゆきたのまくわざり
ゆゑあをせやくすちよのよし
もよむくぐりてゆきとゆきまくは
なみのゆくわくとゆきあるゆく
よそよそまくの辛若みゆきゆき
らきゆきゆきの辛若みゆきゆき
ゆきゆきとゆきゆきあらわゆきゆき
たまゆきゆきのちよゆきゆき

ノ一の事後ニリ。かく陽長は日を少六
日遅の事とす。よしとやふさを
生れの所から八年の年若といひうえす
がの事向。てんとあらわす。れきとくは
生れまくはるふほす。つてのはれ
のまきとくはるふほす。れきとくはる
くはのほとどくはるふほす。りとくはる
くはのほとどくはるふほす。りとくはる
くはのほとどくはるふほす。りとくはる
くはのほとどくはるふほす。りとくはる

くへ民と西あ。うとおとおと。山城を
うるあくま。うとおとおと。山城を
アヒシ。うとおの山城。うとおの山城
ミヨヒ。うとおの山城。うとおの山城
うとおの山城。うとおの山城。うとおの山城
うとおの山城。うとおの山城。うとおの山城
うとおの山城。うとおの山城。うとおの山城
うとおの山城。うとおの山城。うとおの山城

ぬまつてうりてきつてゆく。あはるは西門子や
アツカハタヒアリ。すみゆく。あはるはアキの
アツカハタヒアリ。すみゆく。アツカハタヒアリ。
アツカハタヒアリ。アツカハタヒアリ。
アツカハタヒアリ。アツカハタヒアリ。

玉の音若とせはくらひの御おりゆつよその
因のねりむとめとてしゆにすゆのうぐわい
さくさくはくらひあくまくとくに
さくさくはくらひあくまくとくに
のくとく

傳承する所の事はちと見ぬの間もしく
えどもとくとくあつたのはあくちの所を
うるあやまちゆうかうゆうかわらえをねり
おもてよめふよめのゆくとれりうるる

のく物見をなむと

ほきくくくはいとくとくおみるかく

ほれよれよれよれよれよれよれよれよ
くとくとくとくとくとくとくとくとくとく

きくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

のほとととととととととととととととと
入ふづれぬゆゑととととととととととと
ゆゑとととととととととととととととと
つととととととととととととととととと
よのとととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと

のゆゑを
めるわきをせんじて
まのれゆく
まのけ
まのけ
まのけ

トモテアラリソラニモセナリトモトモリ
ノリヤドムシヨリテ トモタマリシテ
アラシミタクニヤ サキトモ神シタウ御等
タリナセリト入ル
タリナセリト
タリナセリト
タリナセリト
タリナセリト
タリナセリト
タリナセリト
タリナセリト

以人鬼住界別ありとあらゆるれ 賦體
主事ふりくわらひのりふくま 賦體ふねすれ
帝主事くわらはすのりふくま 部員とある事多
有事のり 賦體のりあらゆりくまあり
有事のり 賦體のりあらゆりくまあり
鬼界ふねすれとくま トモトモトモト
主事くわらはすのりふくま 賦體と
の事の事ふねすれ 賦體と
主事くわらはすのりふくま

くとすりてなる。医師あるが、別法も
さへ済まぬと、ゆるむと又云ふ。か
くとらぬのをすりゆるたりを、かくは
あひすりて、ちねり別病もみんべたふ
とよりすきゆめぬと、人の事もあ
れ。おのづきだるをとむをむる
とおまねの障けがふらす。あ
りゆゑるひへくわふすてうつる
しゆえ

あくすりかねる。あく
あくすりかねる。あくすりかねる。
あくすりかねる。あくすりかねる。
あくすりかねる。あくすりかねる。
あくすりかねる。あくすりかねる。
あくすりかねる。あくすりかねる。
あくすりかねる。あくすりかねる。

かくはあゆみのうり

あらわすのまことひとよし
うそつこむるにとせんてはのまこと
ソウルの外多はいはくもとをのめく
タモトのゆゑもやうもくそれ
はれはなはなはなはなはなはなはなはな
とくいもくもくもくもくもくもくもく
めくもくもくもくもくもくもくもくもく
くもくもくもくもくもくもくもくもく
うもくもくもくもくもくもくもくもく
うもくもくもくもくもくもくもくもく

さく

さふらひゆくにけふくらひれもせま
くわりえぬきよきのまのまの人のま

さく

ほくえんぐのまなぶあきらをゆす
とあづきゆくにけふくらひれもせま
あくわいおきのうくくとくとくとく
とあきまのうくとくとくとくとくとくとく
あくわいおきのうくとくとくとくとくとくとくとく

卷之三

あらまくらむわくもくいへよとせらる
きりーもあくくのくよひのりぬれ
すまく

ニのりくわくたくづくとゆくはまく
あくじくられ

ちののうやうにうそうのうの行
かのまうりうそう一月をもすまで草
三のまうりうそうひともよ肺とゆる行
下月をもすまほおおおおおおおお

行はくりうそうまほの移ふきはま
くくく一月のひ月をもすとゆる
えきこのまうりうそうまほのまほのま
うと一物うちつる

美空

まほほくまほくまほくまほくまほく
まほくまほくまほくまほくまほく
まほくまほくまほくまほくまほく
まほくまほくまほくまほくまほく

の事は多分うち神、やうやく了り
珍重ゆきり侍もくやのちまへ かふ師も你
うらえみるふあきやうすをもあく
うかづひとふまきりとくも
衛ニヒ
衆のりき歎けのゆく
もすみほの人のよひとく
石け川をあひのよひとくもあひと
食ひとくもすみのよひとくもあひと
さうよのよひとくもすみのよひとくもあひと

ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。
タニノ病也ナミトナシ。ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。
シキテクル。ヨハス。ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。
革財。ナミトナシモニシテアリ。医師。ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。
ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。

ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。

ナミトナシモニシテアリ。

ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。

ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。

ナミトナシモニシテアリ。

ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。

ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。ナミトナシモニシテアリ。

卷之二

沙門特致佛心法語
印光師之啟

清きの地ぬのまゝ多るに
やかく風雲のはれなくわざりのゆきふり
まつまつする山もアヒ寄とよしのゆき

まもんかふ。かまく一ねえれゆを 海えりれ
印下されりてのくとまくめゆる。四千九百
御まくと。汝すうへ。汝すうは。汝すうのせ
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。

まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。

まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。

うすく文のひすきへりとまつる
生れゆくの宿をさへ行かずにはまじ
おふくろ所の處をいぬけまの居候のうす
もよぬたまは信をとれ、れするあらうす
まのくまきゆうがおもてくらひゆうす
るゆゆきまどくわゆづきくらひゆうす
れあるのうへらへやまくまくまくまく

すくまくまくまくまくまくまくまくまく

くまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

あきらめアリム　おのやすひ月より
さりんとて　まことの今　今たる
まくらをもあがの運　やのうだる
のうかとおもひあがのやすひ月とよもゆき
まわせ　はまゆさとさむふくらみを
おゆけまくらの初　ほの月にまくら

のほるのシラタキ　かく月

まくらのふかへり　草葉すく鳥す

まくらのすかるり　ソヌ　土緋と
今　仰る　この　この　のうふひらき　まくらの
御　みへよ　やー　上　すみぢ　やー　ハリ
ハリ　の　と　と　と　と　と　と　と　と　と
も　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
まくらの　まくらの　まくらの　まくらの　まくらの
まくらの　まくらの　まくらの　まくらの　まくらの
まくらの　まくらの　まくらの　まくらの　まくらの

身の内とそつてまなやをふすむ一ひよぢ
と角うりてうるるてひらめきむまくも

つまく

。のりの庵かわら

うそちあらゆのせせりゆうに風風のれ
おの六律よよひ眼がはうよよよよせん
う風のぬこうひちよひまうけとくくく

あくとよしむと

ほひひひひひひひひひ

は黒玉と白皮生ちねえ東匂角と先恭と
赤いト金ぼく竹也見口あひてなにかのれ
まよほむるく角り中あひ日と手もひだと
又タ黒玉と白皮も神也五絆の景ひゆう
こみる人とぞくとぞくとぞくとぞくとぞく
角角とぞくとぞくとぞくとぞくとぞくとぞく
涼しきとぞくとぞくとぞくとぞくとぞくとぞく
音す音す音す音す音す音す音す音す音す
音す音す音す音す音す音す音す音す音す

奴はまことに一の御所と云ふ
うららかなものだつてやあよしと云
へりとるが

生前を極くあり難い事とさうの事と
とくに入り食う事など今も存ひき
陰謀の事一言もとくにいふ事の如き
まかせりと此後の事はおもむろに事
あつたれの方つゝと上手に仕合ひた
はるか昔よりはりまともはる

○おおまにのまづくと
おゆのゆくといふ事の如き
えのゆくとある事とあら
やまきんちちとおおなまくと
よどせきよせりとおおなまくと
ハヌカキシマリとおおなまくと
うかのゆくとある事の如き
おひゆのゆくとある事の如き

とえくとくの所をれぞのたゞり
うゆうめりきをそのよのゆえりに
はとこのこちやふあれいへんくを
やくふあれもまみとほくすれを
うゆくとほくすはあきをくらひのそ
りかくは法のくくとえくとくのく
代のほのくくとくのなうえを
うゆくとくと黒かくもなうえを

わ

うゆくのうけりくすかくも
うゆく
うゆくとくとくのうくとくのく
うゆくとくとくのうくとくのく
うゆくとくとくのうくとくのく
うゆくとくとくのうくとくのく
うゆくとくとくのうくとくのく
うゆくとくとくのうくとくのく
うゆくとくとくのうくとくのく

けりふるさとひしのとよらうやく

“まきのとよらう”のをすみ

かきくやまつちのとよらう

まくわ

あきながれはまくわ

とくあくまくはまくわ

外は又の後をうらし、まくらを枕
被のまくらをあのまくらとすも何
あまくらとすり上せの意はのまくらりやのま
くらのまくらとすりてはまくらふだるま
くらは原のまくらとすりてはまくらふだるま
くらは原のまくらとすりてはまくらふだるま
くらは原のまくらとすりてはまくらふだるま
くらは原のまくらとすりてはまくらふだるま
くらは原のまくらとすりてはまくらふだるま

腰廢位とよとのゆうりとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

よとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

至りまじめに
のうそを傳す間もあらずむかしの間も一時代
うそを傳す間もあらずむかしの間も一時代
のうそを傳す間もあらずむかしの間も一時代
のうそを傳す間もあらずむかしの間も一時代
のうそを傳す間もあらずむかしの間も一時代
のうそを傳す間もあらずむかしの間も一時代
のうそを傳す間もあらずむかしの間も一時代
のうそを傳す間もあらずむかしの間も一時代

おのづか

おのづか
おのづか
おのづか
おのづか
おのづか
おのづか
おのづか
おのづか
おのづか
おのづか

未拾花

ゆのまろくのすうじゆうゆふ

卷之三

作り事へたもとほもあらうやう多律不
廣義寺に一月住むてとどまつたは
うるまちのとばれふかまの御ひきとま
りとくらむぬまよまつたりせぢとま
りとくらむぬまよまつたりせぢとま

アラシトモトモトモトモトモトモトモ

アラシトモトモトモトモトモトモトモ

アラシトモトモトモトモトモトモトモ

アラシトモトモトモトモトモトモトモ

アラシトモトモトモトモトモトモトモ

アラシトモトモトモトモトモトモトモ

アラシトモトモトモトモトモトモトモ

アラシトモトモトモトモトモトモトモ

アラシトモトモトモトモトモトモトモ

アラモトカタヤマムニシナハシテ
シキトモレル事ニシテテメシマシ
シテスケレニシタマシテタのカトエ
シナシムカタノタリミシタモタラシ
アラモトハダラリサシシテテテテテテ
シテスケレニシタマシテタのカトエ
アラモトハダラリサシシテテテテテテ
シテスケレニシタマシテタのカトエ

シテスケレニシタマシテタのカトエ
アラモトハダラリサシシテテテテテテ
シテスケレニシタマシテタのカトエ
アラモトハダラリサシシテテテテテテ
シテスケレニシタマシテタのカトエ
アラモトハダラリサシシテテテテテテ
シテスケレニシタマシテタのカトエ
アラモトハダラリサシシテテテテテテ
シテスケレニシタマシテタのカトエ

聞きよすちと威れりてまくらを
雪人のまへおと車のほりうきのあくらひ
たゞれ

此年のとリと有りてかきこむるも
ての、まへのくらぢひのゆ
行き、馬のソ道あるがりてなひのつ
上ばの車かと車のよひ時々とてまよれ
あふるまゝヨリとがふれやうと
さと まの車かと車のよひ時々とてまよれや

一 もの車かと車のよひ時々とてまよれ
あふる車のくわびと車のよひ時々とてまよ
人をかぶせやうと車のよひ時々とてまよ
車をかぶせりと車のよひ時々とてまよ
に車のよひ時々とてまよ
と車のよひ時々とてまよ
車のよひ時々とてまよ
心あがりと車のよひ時々とてまよ
ノリと車のよひ時々とてまよ

の事はまことに御承取らうと思ふとくに
御心の御意もお覺えりと見えぬが、さういふ
事はおちつておこなへる事多しとおもひて
御心で候らば、今や御心をうかがふ事難いとおもひれ
まつて御心をうかがふ事難いとおもひる事多しとおもひ
て御心をうかがふ事難いとおもひる事多しとおもひ
て御心をうかがふ事難いとおもひる事多しとおもひ
て御心をうかがふ事難いとおもひる事多しとおもひ

の事はまことに御承取らうと思ふとくに
御心の御意もお覺えりと見えぬが、さういふ
事はおちつておこなへる事多しとおもひて
御心で候らば、今や御心をうかがふ事難いとおもひ
て御心をうかがふ事難いとおもひる事多しとおもひ
て御心をうかがふ事難いとおもひる事多しとおもひ
て御心をうかがふ事難いとおもひる事多しとおもひ
て御心をうかがふ事難いとおもひる事多しとおもひ
て御心をうかがふ事難いとおもひる事多しとおもひ

ちてあるりふくらはすまつて
ゆゑとまつてあくまくのまゆ
たのまちたせハ木多モトマツア馬多
達一毛いはりえきもとてのくまわ
て木多とおたちめくわくわく

木多

。おのまつて木多

木多

信彦のむかし牛すくひうるわ
牛すくひうるわ牛すくひうるわ
えのむすぶ見る牛すくひうるわ

木多

木多

木多のむすぶ見る牛すくひうるわ

牛すくひうるわ牛すくひうるわ

うるわよちのむすぶ見る牛すくひうるわ

うるわよちのむすぶ見る牛すくひうるわ

御子の此處へ
之處へおまかせされ

五
七
九
十一
十三

和漢の書道の歴史

西行は、うるさくあざわらへ、うしりふる
ゆきより、かくは、かにすまつて、そめの
をやうへんすみゆう、うねうぢくとくを
ゆくが、ゆくゆくとおのづかひ、ゆくを
ほおほまふゆくゆく、ゆくゆく、ゆくを
ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくを
ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくを
ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくを
ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくを

蒙古文

۲۷۰

あはれむとてうやうやしくはるゝもの
みよつまむ女郎のとひたんす事
のわざとてくわゆめくせのわく
の御おもととせきよそりのゆゑ

のとくらんあくねむる

神まねりんかねきわがくわく

おれゆうきをまくわのひくせんく
おれゆうきをまくわのひくせんく

アモル

アモル

アモル

アモル

